

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム

NEWSLETTER

ニュースレター

vol. 26

2026/3

数理・データサイエンス・
AI教育が未来社会を拓く。

データ駆動型社会への転換を視野に、
文理を問わず全国すべての高等教育機関の学生が、
数理・データサイエンス・AIを習得できるような
教育体制の構築・普及を目指します。
同時に、この分野を牽引できる国際競争力のある人材
および産学で活躍できるトップクラスの
エキスパート人材の育成を目指します。

MATHEMATICS DATA SCIENCE AI

| contents |

- 「数理・データサイエンス・AIと大学」インタビュー
第25回 茨城大学 農学部／地域未来共創学環
岡山 毅 教授
- ダイバーシティ推進校会議の最近の取り組み
- 2025年度 拠点校会議
「今後の産学連携に向けて」の報告
- 関東ブロックだより ～産学連携交流会の報告～
- コンソーシアム連携校の紹介

「数理・データサイエンス・AIと大学」インタビュー

第25回 茨城大学 農学部／地域未来共創学環

岡山 毅 教授

農業を3次元計測によりデジタル化

「魅力を放つ農業」を目指し活用を研究

理・工・農学の特定分野校である茨城大学。地域の発展に資する人材を育成するため、データサイエンス（DS）とビジネスを柱に、地域の課題解決に役立つ科目を学部横断で学べる「地域未来共創学環」を創設し、注目を集めている。同学環と農学分野でDS教育を担う岡山毅教授に、具体的な取り組みを聞いた。

親和性が高い農学とDS

—— 茨城大学における農学分野のDS教育の特徴を教えてください。

農学部では1年次に「情報リテラシー」や「データサイエンス・AI入門」といった科目で基礎を身につけた上で、2年次からは「農学実習」で農作業を一通り経験します。その実習の中で、近年はロボットやIoTなどを活用したスマート農業が進んできていること、それゆえデータの活用が重要になってきていることを体験してもらい、DSの学びに対するモチベーションを上げていきたいと考えています。

茨城大学には東京ドーム6個分ほどの広さの農場があり、日常的に動植物に触れられる充実した実習環境があります。授業では学生たちと農場で、例えば柿の糖度を「近赤外分光法」で測定し、どのようにばらつきが出るのかを調べたりしています。

また最先端のスマート農業について知ってもらうため、農機メーカーなどの協力を得て、無人トラクターや無人田植え機のデモを実際に見せてもらったり、衛星リモートセンシングを利用した農作物の生育管理の話をしてもらったりしています。

実のところ、地方の国立大学で新たにDS教育用の科目を設立することは、人員の不足からなかなか難しい面があります。ただ農学関連の科目はデータを必ず扱います。農学はもともとDSと親和性が高いのです。そこで現存科目の中で、DSの要素をより強調していく形でカリキュラムを構成しています。

「学環」で地域を活性化する人材を育成

—— 岡山先生は農学部のほかに「地域未来共創学環」も担当しています。

地域の課題解決のためには、一つの学問体系を超えて分野横断的な学びが求められます。地域特有の諸課題をデータに基づいて解決し、地域産業を活性化していく人材を育成するため、茨城大学では2024年4月に新たな学士課程である「地域未来共創学環」を創設しました。

定員は40名で、DSとともに経済・経営系科目を中心に学習を進めていきます。選抜では面接を行い主体性やコミュニケーション能力を重視しています。ですから地域未来共創学環には、非常にしっかりした、「地域に貢献したい」という意識の高い学生が集まっています。

連携協力学部である農学部、人文社会科学部、工学部の3学部の教員が授業を担当していますが、私はデータを



軸に農業とは何かを考えていく「スマート農業生産」の講義を担当しています。特に最近、スマート農業が大変な盛り上がりを見せています。つまり「農業×DS」が求められているのです。昔は熟練した生産者が畑の状態を見ながら頭の中で情報をインプットして管理していました。しかし時代を経て生産の規模が大きくなるにつれ、次第にデータで管理するようになっていった。どんな肥料をどこに何キロ投入した、その結果収量はこれくらいだった、と。現在では、GPSを用いて位置情報とさまざまな情報とを、時間的な繋がりを持ったデータとして収集できるようになりました。そこから膨大な事実が見えてきます。

従来、勘に頼っていた部分だったところが、きめ細かに可視化でき、高品質で効率的な生産ができるようになった。例えば、肥料のばらつきを修正して、足りないところにだけ撒く。あるいは病気が出るところにだけ農薬を撒く。そうすると使う資材も減らせますし、環境に優しい農業になります。

とはいえ、一口にスマート農業と言っても、生産者はどこから手を付ければいいのか分からない状態ですし、われわれとしてもスマート農業を実践できる若い人材をどんどん育てて供給していかないとはいけません。今は、教育と実践がいろいろと同時進行で混ざり合っている、極めて複雑な状態にあります。

——茨城大学は、コンソーシアムにおいては「理・工・農学」の特定分野校になっています。特に農学分野ではどのような取り組みをしていますか。

農学部の先生たちと、プロのデータサイエンティストにも加わってもらって教材を制作しています。一昨年は「ヤギの行動観察」に取り組みました。ヤギが耳を動かしたり、排泄したりという、あらかじめ収集した行動データを基にして、そこから何が導き出せるのか。またデータを加工してどのように解析していけばいいかを解説し

た教材をデータサイエンティストとディスカッションしながら制作して、コンソーシアム特定分野会議(自然科学系)に提供しています。

農業をデジタル化して予測可能な未来に

——岡山先生ご自身はどのような研究をなさっていますか。

私は「農業版デジタルツイン」にものすごく興味があります。デジタルツインとは、現実世界の物理的な対象をデジタル空間に再現する技術です。現実には自分の菜園があり、一方でそれをコンピュータ上で再現した菜園がある。後者でいろいろな挑戦をしてみて、うまくいったら実地に試してみる。そうしたことの実現を目指しています。

もちろん農業は非常に複雑なので、デジタルツインにするのは簡単なことではありません。植物の生育過程を抽象化、モデル化してシミュレーションする必要があります。光合成で言えば、光がどれくらい当たったときに、二酸化炭素濃度はこれくらいである、と。そういう合理的なシミュレーションを組み合わせていくわけです。

——1つの作物をデジタルツインで育ててみる、といったようなイメージですか。

そうです。具体的には、3次元カメラで植物の形を撮り、光の当て方を変えたりしてどう変化していくかを見るのです。最近では、スマートフォンやタブレットに搭載されたカメラで簡単に3次元計測ができるようになりました。農業現場でも手軽に3次元計測を活用する時代がやってきたといえます。

今、私たちはつくば市にある「つくば牡丹園」でボタンとシャクヤクのデータを収集し、花の3次元形状のデジタル化に取り組んでいます。ボタンとシャクヤクは開花時期に幅があり、順々に咲いていくのですが、もしもそれが一斉に咲いたら華やかですね。デジタルツインなら花の





「やっぱりプロが育てたイチゴは美味しいな」とリスペクトが生まれるかもしれない。一方では、そうした「エンターテインメントとしての農業」とは何かを考えていきたいとも思っています。そこにDSを組み入れると、ゲーム的な要素も付加されて、面白さが倍増するのではないのでしょうか。

DS教育に有効な生成AI

——DSやAIがこれからの社会の発展に与える影響をどう捉えていますか。

生成AIの影響力は、これからますます大きくなっていくと思います。それを教育にどう使っていくか。学生には「AIを使い倒せ」と言っていますが、問題はその先にあります。というのは、問いを重ねていくうちに、こちらの知識レベルを超越してしまい、もう質問ができなくなる瞬間が訪れるのです。あるいは1を問えば10以上の答えが返ってきて、違った方向にAIが向かっていてもこちらで手綱を持てなくなってしまう。そのあたりには生成AIの利用における限界も感じています。

ただAIは、ティーチングアシスタントとしては優秀です。複数の学生から同じことを何度聞かれても、機嫌を損ねることなくていねいに教えてくれます。プログラミングでは、些細なエラーがあってもAIが完全にカバーしてくれますし、DS教育において非常にプラスとなる存在であることは間違いありませんね。

色の配置などを自由にシミュレートできます。この技術で、近い将来には観光農園を応援できるかもしれません。

また作物の品種改良にしても、現実には膨大な時間がかかりますが、コンピュータ上ならさまざまな組み合わせを短時間でシミュレートすることができます。その結果が現実と同じになるかは別問題ではありますが、さまざまな可能性は考えられるでしょう。

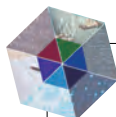
一方、学内の他の研究室との共同研究では、黒毛和牛の体型を中心としたデジタル化にも取り組んでいます。農学部の附属農場では、実際に黒毛和牛の子牛の出産から300 kg程度まで成長させて出荷する繁殖生産を行っており、体型の変化に応じた餌の調整など、飼育の効率化を目指したものです。これまでに3次元カメラを用いた分娩タイミングの推定なども行っています。

各種情報をデジタル化することで、バーチャルな空間に現実のものをポンと置くことができる、そこに私は魅力を感じていて、そのツールとして不可欠なのがDS、という位置づけですね。

——現実の農業は天候にも左右され、肉体的にも重労働です。そこをDSによって少しでも楽に効率的にしていきたい、ということでしょうか。

個人的には農業を辛いものにしたくない、何とか魅力のあるものにしたい、という気持ちがあります。大変な部分はデータを活用して無人の農機に任せられるようにするなど、まだまだできることはたくさんあるでしょう。

ただ、過度に効率化が進んだスマート農業は、作り手にとってディストピアになりはしないかと危惧しています。「AIが最適解を出し、人間はスイッチを押すだけ」では、作り手に喜びはありません。そうではない形で、農業の未来を追究していきたいと思います。一つの仮説としては、「ビジネスと切り離す」という方向性もあり得るのではないのでしょうか。手をかけて育てる喜びを感じられる範囲で行う。家庭菜園的なイメージです。たくさんは収穫できないけれども、職人技によって工芸品のような高付加価値の作物ができる。あるいは、素人なのでうまく育たず



Profile



おかやま つよし
岡山 毅

2003年、大阪府立大学大学院・農学生命科学研究科農学環境科学専攻博士課程修了。米国オハイオ州立大学博士研究員、東京農工大学COE特別研究員、日本植生株式会社研究員などを経て、2018年より茨城大学農学部教授。生物システム由来の最適化アルゴリズム開発や、植物および土壌のセンシング、3次元計測による動物の行動解析や植物の生育診断などの研究に取り組む。著書に『太陽光植物工場の新展開』（共著、養賢堂）などがある。

関東ブロックだより

産学連携交流会の報告

関東ブロックでは、関東経済産業局との共催により、2024年度から「産学連携交流会」を実施しています。その名の通り、産学連携を促進することが目的です。本報告では、これまでの開催概要と参加者の声、今後の展望についてご紹介します。

■ 1. 交流会の概要

産学連携交流会のプログラムは以下の通りです。

- ・趣旨説明
- ・フラッシュトーク
- ・ポスターセッション
- ・懇親会

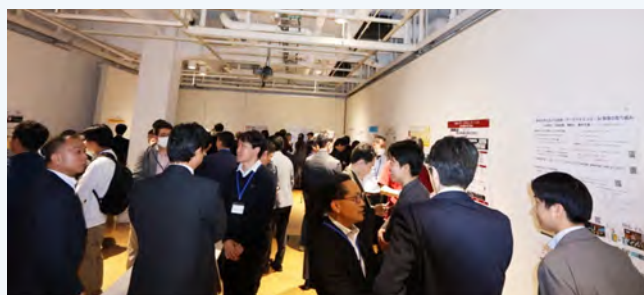
フラッシュトークでは、各大学・各企業の代表者に1分以内でそれぞれのアピールポイントや交流会に期待することを紹介していただきました。登壇者が次々と交代するので目まぐるしくもありますが、参加者が全体像を把握するうえで有効なプログラムとなっています。

ポスターセッションでは、各大学に1枚ポスターを用意していただきました。ポスターを大学側に限定しているのは、学会発表などでポスターの準備に比較的慣れている方が多いと考えられるためです。企業の方には自由に会場を回っていただくという形式をとりました。

懇親会は大学キャンパス内にて立食形式で実施しました。2025年度はポスター発表と同じ会場で行い、懇親会の最中も飲み物片手にポスター前で議論できるようにしました。

これまでの参加団体数は以下の通りです。大学に対しては複数回の参加を歓迎していますが、企業に対しては中小企業の母数が非常に大きいということもあり、現状では毎回異なる企業にご参加いただいています。

日 付	大学数	企業数
2024年12月 9日	12	23
2025年 9月 4日	11	14
2025年10月27日	14	17



写真：ポスター発表の様子(2025年度)

■ 2. 開催までの準備

本交流会の話が持ち上がったのは2023年11月に行われた関東ブロック対面ワークショップの懇親会の場であったと記憶しています。企業ではかねてよりDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が求められており、大学ではPBL（課題解決型学習）の実施が推奨されています。そして企業も大学も人材育成という意味では共通の課題を抱えていると考えられます。しかし大学によっては企業との接点が少ないところもあり、うまくマッチングできるような仕組みを作ることはできないか、という問題意識がありました。

その後いくつかの大学へのヒアリングを行った後、事務局、関東経済産業局との度重なる打ち合わせを経て、上記のような形での開催にいたりしました。企業の選出は関東経済産業局の方にお任せしています。各団体や参加企業との調整など、大変なご苦労をかけていると思います。しかしそのおかげで非常に有意義な集会になっています。

■ 3. 参加者の声と今後の展望

参加大学に対して実施した事後アンケートでは、全ての参加大学から「大いに参考になった」あるいは「参考になった」との回答が得られました。また実際に企業との連携が進んだというご報告もいくつかいただいています。一方で、当日は話が盛り上がったがその後の具体的な連携には結び付かなかったという感想もありました。参加された企業の方からも、同様に有意義だったという声とともにマッチングの難しさを指摘するコメントがありました。

今後は、コンソーシアムとして連携を後押しする仕組みづくりや、マッチングを支援するデータベースの構築など、さらなる取り組みを検討していく予定です。

最後に、本交流会の開催にあたり、ご参加いただいた大学・企業の皆様、関東経済産業局、文部科学省、ならびにコンソーシアム事務局の皆様にご心よりお礼申し上げます。

(文責：清 智也)

ダイバーシティ推進校会議の最近の取り組み

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム ダイバーシティ推進校会議

(推進校：琉球大学、静岡大学、お茶の水女子大学、担当拠点校：筑波大学)

ダイバーシティ推進校会議では、2024年12月に「数理・データサイエンス・AI教育に関するDE&I推進についてのシンポジウム—女子学生へ分野の魅力を伝える取り組み—」(※1)を開催して以降、継続して、1)ジェンダーギャップの解消にむけた広報物作成、2)へき地・小規模校(高校)への教育支援、3)留学生向けの英語教育教材の開発という3つの取り組みを進めてきた。本記事では、1)を中心に2)の取り組みについても紹介する。

へき地・小規模校(高校)への教育支援

琉球大学を中心に、十分な教育機会を得にくいとされるへき地・小規模校(高校)への教育支援を通じて、数理・データサイエンス・AI(以下、MDA)人材の多様性確保に向けた取り組みを実施している。

主な活動は出前授業で、令和7年度は県内外の離島地域に所在する4校の高校で実施した。授業では、「情報I」の内容に沿って、MDAに関する基礎知識や社会での活用事例を紹介し、生徒の理解を深めるとともに、これらの分野への興味・関心を高め、キャリア形成の一助となることを目指している。

へき地・小規模校においては、一般的な社会課題を題材とした学習内容が生徒にとって身近に感じにくく、十分な共感や主体的な関心につながりにくい場合がある。そのため、琉球大学では、各地域の産業や暮らしと結び付いた課題解決やデータ分析を題材とし、地元企業の取り組みなど地域の特色にあわせた教材開発に取り組んだ。また、授業には大学生も参加してもらい、学生と生徒が相

互にやりとりしてデータ分析への興味関心を高めている。また、大学教員が全クラスを担当できない場合には、出前授業を聴講した高校教員が大学から提供された教材を用いて、他のクラスの授業を行うなど、柔軟に対応している。日程調整がさらに困難である場合には、一学年の生徒全員を体育館に集め、能動的な学びを促すためのグループワークを含む一斉集合形式での授業を実施した。

また、県教育委員会との連携により、情報担当教員向け研修に大学教員が講師として参加し、最新の動向や研究事例を紹介することで、高校教員の授業実践力向上にも貢献している。

ジェンダーギャップの解消にむけた高校生向けの広報物作成

ジェンダーギャップの解消にむけた取り組みについて、活動内容の設定経緯も含めて、丁寧に説明したい。

本推進校会議では、まず、ダイバーシティ推進にあたって全国の大学等で抱えている課題の所在を明らかにするための調査・分析を行った。ジェンダーギャップ関連については、社会的要因、小中高、学部講義、大学院進学、就

写真1 出前授業の様子(沖縄県立宮古高等学校)



職など(大学視点の入口から出口まで)様々な場面における課題が指摘された。具体的にコンソーシアム会員校の状況をみると、データサイエンス関連の学科・学部の入学については女子学生の割合は2割程度であり、入口におけるギャップが大きいことが伺えた。一方で、入学後の応用基礎レベルの修了比率の男女差は小さく、入学後のギャップ拡大は防げている傾向がみえた。こうした入口のジェンダーギャップは世界的にも課題となっており、ヨーロッパ女子情報オリンピックが開催されるようになり、日本でもNPO法人Waffleや(公財)山田進太郎D&I財団など様々な団体が課題解決に取り組んでいる。入口の問題解消には、生徒本人だけではなく、保護者や教師の認識も変えることも重要であるが、決して容易ではない。

そんな中、本コンソーシアムは全国各地に会員校として約400校に及ぶ大学等が参加しており、高校や高校生との接点が豊富にあることが国内でジェンダーギャップ解消に取り組む他組織にはない強みであると考え、本推進会議では、高校生向けの活動を行うこととした。高校生との接点として、大学教員の出前授業、高校イベントへの参加といった高校で行うものと、大学で行うオープンキャンパスや大学訪問がある。どちらの機会にも配布できるフライヤーを制作しようということになった。フライヤーであれば、大学教員が話す時間が短くても生徒に渡すことができ、生徒が自宅に持ち帰れば保護者が目にする機会も生まれる。加えて、フライヤーに入れる内容を洗練させていくため、まずは出前授業用のスライド資料を作成することになった。

では、どのような内容がジェンダーギャップ解消に資するのか。「女子生徒に限らずデータサイエンス人材の不足が指摘される中で、女子生徒のみにむけた資料をつくるのもどうか」「アウトプットとして理系分野選択に必ずしもこだわる必要はなく、文系を選択してもMDAアプローチに興味をもってもらうことも大事ではないか」「MDAアプローチの技術的な面白さ・凄さに興味をもつ人と、社会課題解決に繋がるということに興味をもつ人と両方いるのではないか」「女子生徒をdiscourageしないためにどうしたらいいか、大人にアンコンシャスバイアスに気づいてもらうためにはどうしたらいいか」という視点も大事ではないか」「身近に感じるロールモデルを示したほうがいいのではないか」といった議論を対面での打合せ(写真2)も含めて、議論していった。

議論を踏まえ、①どんな分野でもデータサイエンスが有用であること、②女子こそデータサイエンスを選択してほしいこと、③多分野・多年代のロールモデルを通じたデータサイエンスの魅力、④アンコンシャスバイアスの存在、の4つを伝えることを目的にスライド素材を作成することとなった。本記事の執筆時点(2026年1月)では、これらの素材作成は仕上げ段階にある。2026年春の完成を目指しており、完成後は会員校に共有し自由に活用できるようにするとともに、出前授業内で上映可能な10分程度のモデル動画の作成も行う。もちろん、フライヤー制作も行い、より多くの会員校に有効活用してもらいたいと考えている。期待して、もう少々お待ちいただければ、幸いである。

※1 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムニュースレター vol.23 参照

写真2 対面での議論の様子(お茶の水女子大学にて)



拠点校会議「今後の産学連携に向けて」の報告

数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム
企画推進ワーキンググループ

副主査 林 和則

1. はじめに

2025年12月22日、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの拠点校会議が仙台にて開催されました。本会議は、拠点校による教育実践の共有に加え、トヨタ自動車株式会社、日本電気株式会社から企業関係者を迎え、数理・データサイエンス・AI教育と産業界の接続を正面から議論した初の拠点校会議となりました。

本記事では、会議前半のコンソーシアムおよび企業による講演内容を簡潔に紹介するとともに、後半のパネルディスカッションで交わされた主な論点をお伝えします。本会議での議論が、会員校の皆さまにおける今後の産学連携の一助となれば幸いです。

2. 会議の報告

本会議には対面で61名、オンラインで130名の参加者がありました。プログラムは以下のとおりです。

司会:	河合 玲一郎(企画推進WG主査・東京大学)
開会の挨拶	早川 美徳(東北大学)
趣旨説明	今川 新悟(文部科学省高等教育局専門教育課)

第一部:コンソーシアムから産学連携に関する話題提供

北海道ブロック	長谷山 美紀(北海道大学)
関東ブロック	飛田 幹男(筑波大学)、小野 功(東京科学大学)
東海ブロック	武田 一哉(名古屋大学)
近畿ブロック	山本 章博(京都大学)
中国ブロック	土肥 正(広島大学)
教材分科会	来嶋 秀治(教材分科会主査・滋賀大学)
教育用DB分科会	野島 陽水(教育用DB分科会主査・大阪大学)

第二部:参加企業によるプレゼンテーション

トヨタ自動車株式会社	竹内 康臣、杉山 恭誠
日本電気株式会社	孝忠 大輔、綿貫 元起

第三部:企業と大学によるパネルディスカッション

論点整理	川島 宏一(筑波大学)
登壇者	竹内 康臣(トヨタ自動車株式会社)
	小林 淳一(トヨタ自動車株式会社)
	孝忠 大輔(日本電気株式会社)
	吉尾 理(日本電気株式会社)
	三宅 美博(東京科学大学)

閉会の挨拶	駒木 文保(コンソーシアム議長・東京大学)
-------	-----------------------

第一部では、今後の議論の端緒とするため、北海道、関東、東海、近畿、中国の各ブロックの大学に加え、教材分科会および教育用データベース分科会から、産学連携に関する取組が紹介されました。

北海道大学からは、数理・データサイエンス教育研究センターとデータ駆動型融合研究創発拠点が連携したデジタルリスクリングプログラム(DREP)が示され、累計約7,500名に及ぶ受講登録者を対象に、デジタルスキルの底上げと中核人材育成を同時に進めている点が紹介されました。筑波大学からは、MDA教育推進室による産学連携PBLの体系的な設計が報告され、「知り合う→互いを理解する→互いに学ぶ→制度化」という4段階モデルの下、約60社規模の企業と連携した取組が実施されていることが示されました。東京科学大学からは、理工学系6学院を対象とした共創型エキスパート人材育成プログラムが紹介され、企業参画型の講義やフォーラム、単位化されたインターンシップを通じた分野横断的な人材育成の取組が報告されました。名古屋大学からは、約5年間にわたる実践DX人材育成プログラムの成果と課題が示され、長期PBLによる高い学習効果とともに、今後はより幅広い業種・規模の企業ニーズへの対応が必要であることが指摘されました。京都大学からは、サントリーグローバルイノベーションセンターと連携した企業研究者向けデータサイエンス教育が紹介され、e-learningと研究指導を組み合わせた伴走型教育により、社会人博士課程への接続を含む人材循環モデルが示されました。広島大学からは、学部段階からの産学連携教育の取組として、実務家による講義やフィールドワーク、8か月に及ぶ有償長期インターンシップを組み込んだカリキュラムが紹介され、地域DX人材育成への貢献が報告されました。



教材分科会からは、リテラシー・応用基礎レベル教材を集約した教材ポータルの現状と、社会人や高校教員など大学外への展開を見据えた今後の方向性が示されました。教育用データベース分科会からは、全国444大学から回答が得られたPBL教育に関するアンケート結果が共有され、企業連携PBLの未実施校が多い一方で、実施意欲は高いこと、そして調整負担や法令対応、人材確保が主な課題であることが明らかにされ、PBL立ち上げを支援するマニュアル公開について紹介がありました。

第二部では、トヨタ自動車株式会社および日本電気株式会社から講演が行われ、大学教育に対する期待と、企業現場における人材活用の実態が共有されました。

トヨタ自動車株式会社からは、データサイエンス・AIをSQC（統計的品質管理）に代表される現場改善活動の延長線上に位置づけ、生産性向上、高度化、事業創出という三つのステップで社会実装を進めてきた取組が紹介されました。併せて、産学連携を通じた人材育成や地域創生の事例が示され、「T型人材（専門性を深く掘る人）」と「逆T型人材（分野や人をつなぐ人）」の双方が企業には不可欠であることが述べられました。大学教育への期待として、一つの専門性に加えて幅広い知見を身につけることの重要性や、そのような力はPBLなどの実践的学びを通じて育まれるのではないかと、との提言がありました。さらに、滋賀大学データサイエンス学部第1期生として学び、現在同社でデータサイエンス実務に携わる若手社員から、会話データ分析や販売店業務への社会実装事例が紹介され、「ドメイン理解と課題設定力」が価値創出の鍵であることが強調されました。

日本電気株式会社からは、同社におけるAI・データサイエンス活用の全体像と人材育成の考え方が示されました。

「社会価値創造企業」を掲げ、まず自社自身を「クライアントゼロ」として自社内でAIを実践し、その成果を顧客や社会へ展開する循環型アプローチを採用している点が特徴です。数理・データサイエンス・AIは特定の専門部署に限らず、組織全体で活用される基盤として位置づけられており、全社員向けリテラシー教育から選抜型の高度専門人材育成までを段階的に設計した多層的な人材育成体系が紹介されました。若手データサイエンティストからは、生成AIの普及により非専門部門でもAI活用が進む現状が語られ、大学教育で培われる基礎的な数理・データサイエンスの素養が、企業におけるAI活用を支える重要な土台となっていることが強調されました。

第三部のパネルディスカッションでは、

- 企業から見た産学官によるデータサイエンス人材育成の望ましい姿は？
- データサイエンスやDXといった新しい分野を企業や大学等で推進していくうえで重要な点は？
- 企業が期待するこれからの大学等のデータサイエンス教育の役割は？

という3つの論点をもとに、大学教員と企業関係者が一体となった活発な議論が行われました。特に、大学で育成した人材が卒業後にどのような分野・職種で活躍しているのかを把握することの重要性が指摘され、卒業生の進路や活躍状況を可視化する仕組みづくりが今後の大きな課題として共有されました。また、近年はIT関連だけでなく、製造業、金融、流通など多様な業界でデータサイエンス人材の需要が高まっており、データサイエンスを学んだ学生の就職先が急速に多様化している現状が確認されました。議論の中では、大学は「即戦力」を育てる場ではない一方で、基礎力と専門性を武器に、社会で学び続ける力を備えた人材を輩出する役割を担うべきであるという認識が共有されました。企業側からは、専門性を活かすためにはドメイン知識の獲得や現場経験が不可欠であり、入社後すぐに専門部署で活躍するのではなく、一定期間現場で経験を積むことの意義が強調されました。その上で、PBLやインターンシップなど、大学在学中に社会との接点を持つ教育機会が、学生自身のキャリア意識を形成し、産業界とのミスマッチを減らす上で重要であることが改めて示されました。本パネルディスカッションは、数理・データサイエンス・AI教育を多様な分野と結びつく基盤的能力として社会全体に広げていく必要性を確認する場となりました。



3. まとめ

本拠点校会議を通じて、数理・データサイエンス・AI教育は、リテラシー教育の普及という段階を超え、産業界や社会とどのように結びつき、持続的な人材育成の循環を構築していくかという次のフェーズに入っていることが改めて確認されました。大学と企業それぞれの立場から示された実践事例や率直な意見は、教育とキャリア形成を切り離すのではなく、一体として捉える必要性を明確に示しています。今後、会員校が相互に知見を共有しながら産学官連携による数理・データサイエンス・AI教育をさらに深化させていくために、本コンソーシアムには、引き続き対話と協働の場を提供していく重要な役割が期待されます。

コンソーシアムでは、地域や国公立大学等を跨いだネットワークを構築し、数理・データサイエンス・AI教育の全国普及に向けた活動を推進しています。数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムには、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」事業に選定された拠点校および特定分野校を含め、コンソーシアム会員校全体として、約400の大学等に参画いただいています。以下では、新たに連携校として参加された21大学等を紹介します。2022年度から開始された第2期のコンソーシアムでは、拠点校、特定分野校、連携校が一体となって実施する9地域ブロックでの活動が重要になっており、多くの大学等のご参画を期待しています。

連携校は随時募集していますので、連携校となることを希望する国・公・私立大学・短期大学、公私立高等専門学校は、各ブロック代表校までお問合せください。

● 北海道 ● 東北

■ 酪農学園大学 ■

<https://www.rakuno.ac.jp/>



大学や組織の紹介

酪農学園大学は、1933年創立の「北海道酪農義塾」を起源とし、「三愛精神(神を愛し、人を愛し、土を愛する)」と「健土健民」を建学の精神に掲げる大学です。90年を超える歴史の中で、一貫して「農・食・環境・生命」の専門教育を展開してきました。

現在は「農食環境学群」と「獣医学群」の2学群を擁し、2026年4月には情報技術を駆使して農業や地域の課題解決に挑む「農環境情報学類」を農食環境学群に新設します。また、全学的な「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDASH)」を導入し、データ駆動型社会に対応できる基礎的素養の育成を推進しています。北海道の広大なフィールドで得られる一次産業や獣医療の実データに基づき、理論と実習を融合させた独自の「実学」を通じて、持続可能な社会に貢献する専門家を養成しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

酪農学園大学では、これまで「統計学」および「情報処理基礎演習」を全学必修科目とし、データ分析・解析に必要な基礎的素養の修得を推進してきました。2024年度からは、これら2科目に「情報科学の基礎」を加えた計3科目の内容をさらに充実させ、2025年度に数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の認定を受けました。

本科目群では、データ分析を通じて意外な事実や興味深い相関関係を発見する喜びや、視覚的表現を用いた発表による学習成果の共有、および学生同士の相互刺激を重視しています。こうした学びを通じ、統計データの整理・解釈、さらには「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用能力を養うとともに、その学問的な面白さを体感できる教育の実践に努めてまいります。

■ 仙台大学 ■

<https://www.sendaidaigaku.jp/>



大学や組織の紹介

仙台大学は、体育学部内に体育学科、健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科、現代武道学科、子ども運動教育学科の6学科を配し、体育学を軸に幅広い分野を学べる体育系総合大学です。「実学と創意工夫」という建学の精神のもとに、理論面だけでなく、地域社会や企業と連携した演習・実習・インターンシップを通して実践力を養うようにカリキュラムが組まれています。また、「仙台大学DX人材育成プログラム」をスタートさせ、今後の社会で必要とされる数理・データサイエンス・AIに関連するリテラシー向上を全学で図っています。スポーツ情報マスメディア学科では、情報学の学びをカリキュラムに取り入れ、中高「保体」の教員免許だけでなく、高校「情報」の教員免許も取得可能となっています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

仙台大学では、全学科共通で「仙台大学DX人材育成プログラム」に取り組み、数理・データサイエンス・AIの基礎から応用まで段階的に学べる環境を整えています。リテラシーレベルでは「情報処理」と「教養数学」を通してデータに親しみ、応用基礎レベルでは「データサイエンスⅠ・Ⅱ」において幅広くデータサイエンスについて学び、「スポーツ計量学」、「データ処理の基礎」を組み合わせ、現場の課題をデータで捉え直す力を育成します。これらの学びを通じて、各専門分野とデジタル技術を結び付け、地域社会のDXを牽引できる人材の育成をめざしています。今後も時代に即したカリキュラムの充実とPBL型の学びを通じて、学生一人ひとりが自分の専門性とデータ活用力を統合し、新たな価値を創出できるように人材育成を行っていきます。

■ 東京農工大学 ■

<https://www.tuat.ac.jp/>

大学や組織の紹介

東京農工大学の創基は1874年(明治7年)で、内務省勸業寮内藤新宿出張所(現在の新宿御苑の地)に置かれた「農事修学場」と「蚕業試験掛」がルーツです。

野菜や果物などの品種改良や栽培方法の確立を行ってきた農事修学場が現在の農学部、当時重要な産業であった養蚕や製糸に関する試験研究を行ってきた蚕業試験掛が現在の工学部になりました。

世界第一線の研究大学を目指し、「使命志向型教育研究－美しい地球持続のための全学的努力」の基本理念のもと、農学、工学、そしてその融合分野における教育研究を通じて世界の平和と、社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献し持続発展可能な社会に向けた課題解決とその実現を担う人材を育成しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学は2023年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定され、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決し、実践的能力の育成を目的とするプログラムを展開しています。プログラムは、「Ⅰ.データ表現とアルゴリズム」と「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎・実践」の二つで構成されています。「Ⅰ.データ表現とアルゴリズム」では、統計学をはじめ、様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指します。「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎・実践」では、AIの歴史から多岐に渡る技術の種類や応用分野、研究やビジネスの現場におけるAIの構築から運用までの一連の流れを学習します。

■ 作新学院大学 ■

<https://sakushin-u.ac.jp/>



大学や組織の紹介

「作新」とは中国の古典『大学』にある一節に由来する言葉です。

作新学院は「作新民」の精神とともに教育方針として「自学・自習」「自主・自律」の基本理念を掲げ、新しい人材の育成に努めてきました。

本学は、この「作新民」を建学の精神として「時代の変化にきちんと対応し、自らを常に新しくできる人材を育てること」を教育目標に掲げ、「日々自らを新しく」を合言葉に、学生が若さと活力を発揮し明るく学ぶ大学づくりを目指しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学では、全学的な基盤教育として数理・データサイエンス・AIに関する内容を学べる科目群を設置しています。同プログラムでは、データサイエンス及びAIの基礎的な知識を習得し、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことが出来る基礎的な素養を身に付け、Society 5.0の社会に必要とされる人材を育成します。

学修した知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できるようになることを目指しています。

■ 浦和大学 ■

<https://www.urawa.ac.jp/>

人を愛する力を育む



浦和大学

大学や組織の紹介

浦和大学は、1987年に設置された浦和短期大学を母体に、2003年に短期大学福祉科の一部を改組して、総合福祉学部総合福祉学科を設置して開学しました。その後、学部学科の改組を経て、現在、保育・幼児教育を専門とするこども学科と学校教育学科からなるこども学部、および総合福祉学科と現代社会学科からなる社会学部の2学部4学科体制となっています。建学の精神である「実学に努め徳を養う」に基づき、少人数での実習や資格取得教育など実践的な教育を行い、真のやさしさを持って人を支えて社会に役立っていけるような人材育成を目指しています。社会の変化に対応するため、2025年度より「情報」、「心理」、「ウェルネス・エクササイズ」など8つの副専攻を設置して、学生が多様なスキルと知識を身につけることができるようになっています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

2024年度から実施している「浦和大学データサイエンス・AI教育プログラム」が、2025年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシレベル)」に認定されました。2024年3月に生成AI利用に関するガイドラインを制定して、授業での使用に関する留意点や生成AIの問題点などを注意喚起した上で、学びに有益な使い方を習得できるよう教育する方針を取っています。授業で生成AIの出力画像をもとに著作権などの問題を取り上げたり、学生がAIを思考のパートナーとして活用する力を養うことをねらい、読書感想文コンクールに生成AI部門を設けています。データサイエンス・AI分野の科目に加えて、情報処理、情報メディア分野の科目を履修することで、情報副専攻修了となる制度を設けるなど、デジタル人材育成に取り組んでいます。

■ 北里大学 ■

<https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/index.html>



大学や組織の紹介

北里大学は、近代日本医学の父であり、学祖・北里柴三郎の精神を継承し、1962年に創立されました。生命科学の総合大学として、薬学部、獣医学部、医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部という9つの学部をはじめ、大学院や3つの病院を擁し、教育・研究・医療を柱として、社会に貢献しています。白金・相模原・十和田・新潟と4つのキャンパスで、最先端の研究と実践的教育を推進し、世界に通じる人材を育成しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学は、生命科学の総合大学として教育研究を展開しているなかで、数値・データサイエンス・AIの重要性を鑑み、2023年度より文部科学省からの認定を受け、教育プログラムを開始しているところです。高度なデータサイエンス人材を養成する未来工学部では応用基礎レベルを、その他の学部ではリテラシーレベルでのプログラムを提供しています。様々な課題があり、まだ全学必修化には至っておりませんが、生成AIの急速な進化と普及から、重要性が一層増していることを実感しています。この度のコンソーシアムへの連携校参画を契機に、本学の学生に対しより充実したプログラムを提供できるよう、連携校の皆様の取組事例を学ばせていただけますと幸いに存じます。

■ 明治薬科大学 ■

<https://www.my-pharm.ac.jp/>



大学や組織の紹介

明治薬科大学は、「薬学の普及と社会に有用な薬剤師を養成し、医薬産業を実施し、もって国民の保健衛生へ貢献する」との建学の精神のもと、1902年に設立されました。1906年には国内初の女子薬学校を併設、1949年から現名称の新制大学として認可を受け、現在までの120年余りの間に約4万人の卒業生を輩出しています。本学は薬学科と生命創薬科学科を擁し、薬剤師の養成のみならず創薬科学と生命科学にも注力しています。また、各学科に対応する大学院を設置して実務者、研究者等の養成に尽力しています。本学では、全学において先進的なデータサイエンスの研究および教育に取り組むべく、情報工学の専門教員を配置し、薬学データサイエンスセンターを設置して計算科学による研究と、教育プログラムの開発、実施を推進しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学では学部1、2年次の科目で独自のデータサイエンス教育プログラムを構成、実施しており、本年度に文部科学省MDASHリテラシーレベルの認定を受けました。さらに、創薬研究の専門的内容を含む科目により来年度でのMDASH応用基礎レベルの認定を目指しています。加えて、来年度にバイオインフォマティクス＋データサイエンスの新科目を生命創薬科学科に開設し、その翌年度からは薬学科5年次でのデータサイエンスの実習、演習コースを開始します。本学薬学データサイエンスセンターではこれらのプログラムや演習コースなどを統制すると同時に医療ビッグデータ解析や分子シミュレーション等の研究を推進し、研究と教育の両面で組織的にデータサイエンスの導入、普及と、それによる研究、教育の発展、さらには人材育成の取り組みを進めています。

■ 武蔵野美術大学 ■

<https://www.musabi.ac.jp/>



大学や組織の紹介

2029年に100周年を迎える武蔵野美術大学は、「帝国美術学校」を前身とし「教養を有する美術家養成」「真に人間の自由に達するような美術教育」を教育理念に掲げ、幅広い教養と人間性を有する造形各分野の専門家を養成し、文化の創造発展と社会貢献に寄与してきました。

造形学部と造形構想学部の2学部、絵画、彫刻からデザイン、建築、映像、芸術文化、そして社会イノベーションまで、美術・デザインの広がりに対応する12学科を有し、大学院には造形研究科、造形構想研究科を設置しています。また50年以上の実績を持つ通信教育課程も設けています。

日本を代表する美術・デザイン大学として、これまで社会に輩出した卒業生は7万6,000人に上ります。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

現代社会において、クリエイティブな発想とデータに基づく論理的思考力の両立が求められる中、芸術分野においてもデータに基づく分析力やAI技術の活用が、今後、重要性を増していくと予想されています。本学では、情報教育センターを中心に、芸術系大学の特性を活かしたデータサイエンス・AI教育の体系化に取り組んでおり、現在、文部科学省の認定プログラム取得に向けて準備を進めております。クリエイティブな発想とデータに基づく論理的思考力を両立できる人材、AIを創造的に活用できるクリエイターの育成を目指し、美術・デザイン教育におけるデータサイエンス・AI教育の新たなモデルを構築してまいります。

■ 長野保健医療大学 ■

<https://shitoku.ac.jp/>



大学や組織の紹介

長野保健医療大学は、医療・保健・福祉の専門職を養成する私立大学で、2001年に前身の長野医療技術専門学校として設立され、2015年に大学として改組・開学しました。現在は看護学部と保健科学部（理学療法・作業療法専攻）を擁し、知識と技術を世界に広める気概を持って社会に貢献することを使命とする「徳風四海に治（あまね）く」を教育理念に据え、「仁心妙術」の教えを通じて、豊かな人間性と確かな医療技術を兼ね備えた人材を育成しています。地域の高齢化や医療ニーズの高まりを受け、長野県内の医療機関や自治体と連携し、介護予防や地域保健に関する研究・実践教育を推進してきました。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

2025年度に「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」の連携校に登録した本学では、既に統計・情報リテラシー教育、医療データの活用、臨地実習の支援におけるデジタル化（Teams等によるDX推進、実習支援システムによる実習先との情報共有・データ化）などを通じて、リテラシーレベル相当の基盤を整えています。一方で、学部を横断する共通科目設定や体系的なデータサイエンス教育の枠組みは未整備であり、今後はカリキュラムの整備・学部間連携を進め、全学的にデータサイエンス教育を定着させたいと考えています。加えて、地域自治体から得た健康・介護関連データを教材や研究素材とし、地域の介護予防や健康支援に資する医療人材を育てるための教育・研究拠点としての役割も強化してまいります。

■ 静岡県立大学 ■

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>



大学や組織の紹介

静岡県立大学は、1987（昭和62）年に旧県立3大学を改組、統合して開学し、2007（平成19）年の法人化後も「県民の誇りとなる価値ある大学」として、地域社会や国際社会に貢献できる学力と知力を伸ばし、基礎力と応用力を発揮して能動的な活動を実践する人材を育成するための教育と研究の場を提供しています。

現在、5学部（薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部）とそれらの大学院を併設しており、草薙キャンパスと小鹿キャンパスで約3,000名の学生が学んでいます。

私たちは、静岡県の総合学府として大学の知を結集し、地域と一体となって課題解決に取り組み、未来にはばたく人材を世界に送り出す使命を果たしていきます。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学の教育プログラム（リテラシーレベル）は、2024（令和6）年度より、全学部の学生を対象に開始しました。全ての学生が身につけるべき数理・データサイエンス・AIの基礎的な能力をアクティブラーニングで修得し、さらに、各学部の専門性を探究できるデータリテラシーをPC演習等で修得して、各々の専門分野において問題解決に向けた提案ができる実践的基礎力を養うことを目指しております。

また、学部単位では、食品栄養科学部において、2023（令和5）年度より教育プログラム（応用基礎レベル）を開始し、食品生命科学、栄養生命科学、環境生命科学の「専門 × データサイエンス」の知識・技能を課題解決型学習（PBL）で修得し、社会問題を解決する実践力を身に付けることを目指しております。

■ 常葉大学 ■

<https://www.tokoha-u.ac.jp/>



大学や組織の紹介

常葉大学は、1980年の教育学部創設を起点に、2013年に3大学を統合して誕生した静岡県最大の私立総合大学です。草薙・瀬名・水落・浜松の4キャンパスに10学部19学科、大学院を擁し、約7,700名が学んでいます。「MIRAI TOKOHA」をビジョンに掲げ、教養教育の充実や数理・データサイエンス・AI教育を全学で推進し、地域と連携しながら未来を創る人材育成に力を注いでいます。さらに、学生の主体性を育む6つのプロジェクトを展開し、入学前から卒業後まで挑戦を支える体制を整えています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学では、従来より情報リテラシー科目を必修とし、パソコンスキルなど情報教育に積極的に取り組んできました。近年、社会でのデータサイエンスやAIへの関心の高まりを受け、科目名称を「情報リテラシーⅠ（AIを含む）」「情報リテラシーⅡ（数理・DSを含む）」へ変更し、令和7年度には数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を取得しました。本プログラムは全10学部19学科で必修とされ、分野を問わず数理・データサイエンス・AIの基礎知識と技術を身につけ、社会に貢献できる人材育成を目指しています。

■ 名古屋文理大学 ■

<https://www.nagoya-bunri.ac.jp/>



大学や組織の紹介

名古屋文理大学は、昭和16年に渡辺製菓が設けた栄養に関する研究機関を発端に役員であった滝川一益（本学園創設者）が昭和31年に名古屋市西区で開始した栄養士養成施設「名古屋栄養専門学院」（専門学校）を前身としています。その後、愛知県稲沢市の「名古屋文理大学」、名古屋市西区の「名古屋文理大学短期大学部」と「名古屋文理栄養士専門学校」の3つの教育機関に発展しました。現在、大学は、健康生活学部（健康栄養学科、フードビジネス学科）と情報メディア学部（情報メディア学科）で構成されています。令和7年に大学院「健康情報学研究科」を開設し、さらに令和10年度を目標に、新学部の開設を目指しています。名古屋文理大学は、「食と栄養と情報」をテーマに実践的な教育・研究を行い、学生一人ひとりの目標達成を全力でサポートします。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

名古屋文理大学では、令和3年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。本プログラムは、プログラムを構成する全科目が、全学部全学科で必修であり、本学学生全員がこのプログラムを修めます。また、令和7年度に情報メディア学部が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定されました。このプログラムの受講により、自らの専門分野にデータサイエンス/機械学習の各手法を応用するための大局的な視点を身につけることができます。また、生成AIについての倫理を身につけ生成AIを用いたコンテンツ作成が出来るようになります。本学では、AI技術やデータサイエンスの力を活用して「食と栄養と情報」分野のDXを担う人材を育てます。

■ 金城学院大学 ■

<https://www.kinjo-u.ac.jp>



大学や組織の紹介

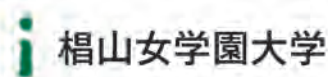
1889年創立から福音主義キリスト教に基づく、女性への全人教育を掲げ、人格形成と専門教育を通じて社会に貢献する人材育成に取り組んできました。2026年度からは学部・学科改組により、新たにデザイン工学部を設置し、情報技術とデザインを融合する情報デザイン学科を新設します。情報デザイン学科では、プログラミングやWebデザイン、映像・メディア表現、AI・データサイエンスなどを学び、社会課題の発見から解決までを「情報 × クリエイティブ」の視点で取り組む教育を行います。文理融合の学びやチームでのプロジェクト型学修を通じ、柔軟な発想力・デザイン力・情報活用力を育成。地域連携や産学協働の機会も通じて、実践力を備えた人材を育て、女性が主体的に未来を切り拓く力を支える大学として、新たなステージに踏み出します。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

全学的にデータ活用力を身につけることを目的とし、2024年度より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」を全学必修として導入しました。1年次科目「情報リテラシー」では、データの取得・加工・可視化、統計的思考、AI活用の基礎、情報倫理などを体系的に学び、実データを用いた演習を通じて「データを読む・説明する・扱う」基盤的能力を育成しています。また、LMSを活用した学修状況の可視化や授業評価による改善、TA配置などの学修支援体制により、修得できる環境を整備しています。2026年度の学部改組に合わせ、文理横断の学修機会をさらに拡充し、専門領域とデータ活用をつなぐ教育の高度化を推進します。コンソーシアムとの連携を通じ、女性がデータ社会で活躍するための基盤育成に引き続き努めてまいります。

■ 椋山女学園大学 ■

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/>



大学や組織の紹介

椋山女学園大学は1905年に名古屋裁縫女学校として創設され、1949年に新制大学として開学した愛知県名古屋市の私立女子総合大学です。「人間になろう」という教育理念のもと、主体性・協働性・人間性を重視した教育を展開し、女性の自立と社会貢献を支えています。幼稚園から大学院までの一貫教育体制を整え、管理栄養士や看護師などの専門資格取得にも対応しています。生活科学部、外国語学部、人間関係学部、情報社会学部、現代マネジメント学部、教育学部、看護学部の7学部を擁し、幅広い分野で専門性を磨くことができます。キャリア支援や地域連携活動にも力を入れ、学生が実社会で活躍できるようサポート体制を強化しています。さらに、産学連携やICT活用など時代に即した教育改革も進め、女性リーダーの育成を目指しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

椋山女学園大学では、2024年度より全学共通の教養教育科目「AI・データと社会」を開講し、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを導入しました。これにより、2025年度に「リテラシーレベル」の認定を受けました。また、情報社会学部では「AI・データと社会」を軸に情報デザイン学科では4科目8単位、現代社会学部では3科目6単位を修了要件とした数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルを導入し、2025年度に「応用基礎レベル」の認定を受けました。本学ではデータ活用と倫理観を備えた人材育成を通じ、女性のリーダー育成を目指します。また、コンソーシアム連携校として、先進校の事例を参考にさせていただき、本学に適した教育を進め、社会に貢献してまいります。

■ 大同大学 ■

<https://www.daido-it.ac.jp/>

大学や組織の紹介

大同大学のルーツは1939年、大同製鋼社長の下出義雄が設立した大同工業学校にあります。同校は、技術者教育の重要性を説いた「電力王」福澤桃介の思想を継承し、産業界の発展を担う人材育成を目的として誕生しました。

1964年には中部地区産業界の要請を受け大同工業大学を設置。時代の変遷とともに産業構造や社会ニーズが多様化する中、本学は教育内容を柔軟に拡大してきました。こうした歴史的背景を踏まえ、現在は「産業と社会の要請に応える人材の養成」を建学の精神に据えています。

2015年には、従来の基本理念「創造と調和」を見直し、一貫性と体系的性を持たせた大学の理念として「実学主義」を制定しました。実学の教育と研究を通じて、産業と社会に貢献することを目指しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

大同大学では、情報サービスを適切かつ効率的に利用する手法の修得と、数理・データサイエンス・AIに関する基礎能力の向上を目的とした教育プログラムを展開しています。本プログラムは全学部必修科目として「情報リテラシー概論」と「データサイエンス概論」の2科目で構成され、文系・理系を問わず全学生が卒業要件として同じ内容を学びます。

授業はオンデマンド形式で実施し、Microsoft Teamsを活用して随時質問を受け付けることで、対面が苦手の学生でも疑問を解消しやすく、振り返り学習が容易な環境を整えています。

今後はデータサイエンス教育運営小委員会を中心に、自己点検・評価を通じてプログラムの改善・進化を図り、学生が社会におけるデータやAIの関わりを理解し、活用できる能力をさらに高めていく所存です。

■ 日本赤十字豊田看護大学 ■

<https://rctoyota.ac.jp/>

大学や組織の紹介

日本赤十字豊田看護大学は、愛知県豊田市に所在する私立の看護系単科大学です。日本赤十字社による看護師養成の歴史を受け継ぐ大学として2004年に開学しました。

学校法人日本赤十字学園により設置された本学は、全国6か所の赤十字看護大学のうち中部圏の看護師養成を担っています。赤十字の理念である人道を建学の精神とし、人・いのち・生活を大切に思い、看護学の学修者として本質を見失わず、未来を見据えて活躍ができる人材の育成を使命としています。

学部は看護学部看護学科のみですが大学院看護学研究科（修士・博士）も設置されています。臨床看護、看護管理、地域看護などの分野で高度な実践力と研究能力を備えた専門職者を養成しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学の「看護のデータサイエンス」プログラムは、「情報リテラシー」「保健情報演習」「保健統計」「疫学Ⅰ」の4科目を連携させ、看護実践にデータを活用できる力を体系的に育成することを目的としています。情報管理の基礎から、統計資料の読解、Excelによる可視化、SPSSを用いた記述・推測統計とその解釈までを、1～3年次で段階的に学べるよう構成しています。

保健情報演習では「文章改善支援システム」により統計結果の記述力を高め、保健統計・疫学Ⅰでは意見共有システムを用いた参加型授業で理解を深めています。看護学部だけの単科大学という特性を生かし、将来、看護方法の効果や地域の健康課題を自ら調査・分析できる人材の育成を目指しつつ、教材やWebツールの充実を図り、看護に特化したデータサイエンス教育をさらに発展させていきます。

■ 佛教大学 ■

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/>

大学や組織の紹介

佛教大学は、ブッタと法然上人の御教えにもとづいた仏教精神を建学の理念とし、本年で開学113年目を迎えます。現在、仏教学部、文学部、歴史学部、教育学部、社会学部、社会福祉学部、保健医療技術学部の7学部15学科を擁し、来年度から看護学科が看護学部に移ります。本学は全国に先駆けて通信教育課程も併設し、その歴史は70有余年を数え、多くの卒業生を輩出していることも特徴のひとつです。さらにオープンラーニングセンターは、本学の教育研究の成果を社会へ還元することを目的とする附置機関を有し、生涯学習の佛教大学として、多くの受講生を有しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学は、このたび、2025年5月に数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）に認定いただきました。2025年度は既存の科目を活用する形での申請となりましたが、2026年度にはカリキュラムを改定し、新たに「データサイエンス科目群」を設け、より充実した数理・データサイエンス・AI教育を展開していく予定です。

また、本コンソーシアムにご所属の大学様の知見やお力添えも賜りながら、データサイエンス人材の育成・充実に尽力して参る所存ですので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 大阪商業大学 ■

<https://ouc.daishodai.ac.jp/>



大学や組織の紹介

大阪商業大学は建学の理念「世に役立つ人物の養成」に基づき、経済学・経営学・商学・公共学を中心とした学問を基盤に教育活動を行っています。社会で必要とされる能力・資格等の取得に加え、自らの自立を促す教育課程内外の活動（フィールドワーク、留学、スポーツ、文化、ボランティア活動等）に積極的に取り組むことで、時代の変化に柔軟に対応できる資質を養います。

建学の理念の4つの柱「思いやりと礼節」「基礎的実学」「柔軟な思考力」「楽しい生き方」を兼ね備えた人材を育成することを使命とし、時代・社会の変容を読み解く資質・能力に必要となる「広義の読解力」の育成を基軸とした学修者本位の実学教育を展開しています。学生一人ひとりが主体的に学び、変化に対応できる柔軟性と創造性を備えた人材を育成します。

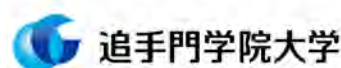
取組概要・計画または抱負・挨拶など

本学では、社会科学系の学生がAI・データサイエンスの基礎を学び、それらを業務で効果的に活用できる力を身につけることを目標とした「大阪商業大学AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」を、2023年度から実施し、2024年度に文部科学省MDASHリテラシーレベルの認定を取得しています。本プログラムは、従前から開講していた全学共通科目を組み合わせた科目構成で、修了者にはオープンバッジを発行しています。2026年度からは、基礎プログラム修了相当の学生を対象とした「大阪商業大学AI・データサイエンス教育プログラム（応用）」を開始する予定です。

コンソーシアム会員校の皆様と情報を共有しながら、より実効性の高い教育プログラムへと発展させていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■ 追手門学院大学 ■

<https://www.otemon.ac.jp>



大学や組織の紹介

追手門学院大学は大阪府茨木市に所在し、2019年に総持寺キャンパスを新設、安威キャンパスとあわせて2キャンパス・9学部から成る私立大学です。文系総合大学としての伝統に加え、2025年には初の理系学部となる理工学部を新設し、文理融合と実学重視の教育を推進しています。教育のDX化・AI活用を通じて、学生一人ひとりの成長を支え、社会で活躍できる「独立自強・社会有為」な人材の育成を目指しています。

理工学部は、不易流行の理念のもと、体系化された理工学知識を学ぶ喜びを提供する教育、学問体系の深化に貢献する新たな知識を創造する研究、そして信頼される技術者を輩出し続ける社会貢献を目指しています。数理・データサイエンス学科、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科の4学科から成り、学年定員は200名です。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

このうち、数理・データサイエンス学科は、1学年あたり学生定員30名、2026年4月以降は12名の教員によって構成されます。本学科では数学的な思考力を育て、その上で統計学、データサイエンス、機械学習を体系的に学べるよう、カリキュラムが構成されています。少人数制の利点を生かし、努力次第で着実に力を伸ばせるよう配慮されています。1学年では、線形代数および微分積分とその演習を必修とし、数理的基礎を固めます。その上で、専門科目として、統計的推測（必修）、回帰と分類、R言語プログラミング、数理最適化、多変量解析、ベイズ統計学、因果推論、深層学習および機械学習のプログラミング、金融数理、時系列解析などを学ぶことができます。さらに、実データを用いて課題を設定し、分析結果をPowerPointで発表する演習も取り入れています。

■ 吉備国際大学 ■

<https://kiui.jp/>



大学や組織の紹介

吉備国際大学は、学校法人順正学園の「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、高梁、南あわじ志知、岡山及び岡山駅前に4つのキャンパスを持ち、計6学部8学科、通学制大学院4研究科、通信制大学院3研究科及び留学生別科を有する総合大学です。

「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」をブランドビジョンに掲げ、学生の三つの力を引き伸ばすため、地域に根差した人材の育成と、留学生の積極的な受け入れ、海外の大学と教育・文化交流を図ることにより、学生に国際性を備えた豊かな人間性を身につけさせることに努めています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

「数理・データサイエンス・AI」は、今後の「デジタル社会」時代の「読み・書き・そろばん」であり、すべての学生が身につけておくべき素養として位置づけられています。

吉備国際大学では、「数理・データサイエンス・AIの人間中心活用による課題解決の基礎を身に着けること」を目的として、所属学部にかかわらず、すべての学生が以下のことを学ぶことのできる、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」を開講しています。

1. その必要とされる背景や仕組みを学ぶ
2. 数理・データサイエンス・AIのELSIや負の側面を学び、よりよい活用を目指すようになる
3. 活用して社会の実データ・課題を読み解き、判断できるようになる

■ 広島経済大学 ■

<https://www.hue.ac.jp/>

大学や組織の紹介

広島経済大学は、中国・四国地方唯一の経済を専門とする大学として1967(昭和42)年に創設されました。以来、「和を以て貴しと為す」という建学の精神と「大学の道は明德を明らかにするにあり」という立学の方針のもと、社会に貢献できる優秀な人材を数多く送り出しています。

2006(平成18)年度からは、「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を教育目的に掲げ、社会で求められる「人間力」を重視した興動館教育プログラムを開始しました。2019(平成31)年度には、経済学部1学部5学科から、経済学部経済学科、経営学部経営学科・スポーツ経営学科、メディアビジネス学部ビジネス情報学科・メディアビジネス学科の3学部5学科へと改組し、大学院経済学研究科とともに社会科学系の総合大学として次代を担う「人間力」を兼ね備えた人材を育成しています。

取組概要・計画または抱負・挨拶など

広島経済大学の数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)は、「データサイエンス教育プログラム」として2023年8月に文部科学省の認定を受けました。全学生が受講可能な共通科目基礎教養科目群に「AIリテラシー入門」を設置し、データの生成・収集・分析・活用までの一連の流れについて、統計的手法やAIの活用を通して学びます。

今年度までは対面とオンデマンドを併用していましたが、2026年度からは完全オンライン化し、入学生全員の履修を必須とします。

AI時代に求められる基礎知識や情報リテラシー、論理的思考力、分析力の修得を目指して、充実したプログラムとなるよう検証・改善を繰り返し、データやAIと適切に付き合う姿勢を育てていきたいと思っています。



数理・データサイエンス・AI
教育強化拠点コンソーシアム

編集委員 河合玲一郎(東京大学)、林和則(京都大学)

発行元 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム事務局
東京大学 数理・情報教育研究センター

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

E-mail: cerist@mi.u-tokyo.ac.jp <https://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>